

ニコニコ技術部、ニコニコ学会βの輸出活動 ニコニコ学会シンガポール

高須 正和 無駄に元気な、チームラボ Make 部の発起人。チームラボ／ニコニコ学会β／ニコニコ技術部などで活動をしています。日本の DIY カルチャーを海外に伝える『ニコ技輸出プロジェクト』を行っています。日本と世界の Makerムーブメントをつなげることに関心があります。現在シンガポール在住。MakerFaire 深圳(中国)、Mini MakerFaire シンガポールの実行委員。

イノベーションの市民化

Make は、自分が楽しんでモノを作る試みです。料理や大工仕事など、何千年も前から行われてきた「楽しんで作る」活動のなかで、「自分が作りたいソフトウェア」を作る活動が、インターネットの普及により、世界を進化させるようになりました。今読んでいるこの文章は、誰でも開発に参加できる、Linux や Apache といったオープンソースの OS や web サーバから配信されています。

そしてここ数年、「誰でも自分の作りたいものが作れ、それが世界を進化させる」活動は、ハードウェアにまで及ぶようになりました。販売チャネル、プロモーションといったものもインターネットに載るようになり、銀行や投資家を介さなくても個人同士で資本が集まるようになり、中国での大量生産が個人や少人数の集団でも行えるようになったことで、かつては Apple のような大企業でしかできなかった、「世界を相手に、世の中を変えるようなモノを作る」というチャレンジが、やる気と努力次第でだれでもできるようになりました。その動きはメイカームーブメントと呼ばれています。¹

サイエンスはこれまで見つかっていなかった法則や事実を研究によって発見することによって世界を進化させる試みです。サイエンスが民主化され、だれでも研究できる時代になったことがニコニコ学会βのテーマの一つです。また、アートは「美」を拡張することで人類を進化させます。僕が務めているチームラボは、デジタルという概念で美を拡張しています。そして、僕はメイカームーブメントを同じく人類を進化させるものだと考えています。

楽しんで作ったものを持ち寄って見せ合うメイカーたちのお祭り Maker Faire は、現在は年間 300 カ所ほどで行われています。メイカームーブメントの火付け役となった Make: という雑誌を発行している米 MakerMedia 社(2013 年にオライリーから独立)がライセンスを発行し、小規模なモノは Mini Maker Faire、大規模なモノは Maker Faire の冠が与えられフラッグシップフェアと呼ばれます。アジアで行われている大規模な"Maker Faire"は、東

¹ メイカームーブメントについては、「イノベーションのエンジンが変わった」という文章を 情報処理 一般社団法人情報処理学会 55(10) (20140915)に書きました。

京、深圳、台北の3カ所だけです。ほか、ソウル・ペナン(マレーシア)・シンガポールなどでも Mini Maker Faire が行われています。

ニコニコ技術部の輸出活動

ハードウェアにおけるイノベーションの民主化の中心地はなんといっても中国の深圳で、深圳の Maker Faire では、本場アメリカのフェアよりも多くの VIP が講演をします。ハードウェアで世界を変えようとするメイカーの間では深圳に移住してプロトタイピングを行うのが一つのトレンドになっていて、世界中からメイカーが集まっています。また、中国出身のメイカーも多く誕生していて、これまでなら大量生産のための歯車として終わっていた人たちが、自ら信じる製品を作り出して世界を相手にビジネスをはじめています。

2014 年から東南アジア勤務が始まり、4 月に行われた深圳の Maker Faire に参加した僕は、それまで見ていたアメリカや台湾の Maker Faire を上回る衝撃を受け、国ごとの Maker Faire の違いにも驚きました。メイカーの世界では、やっているプロジェクトが自己紹介です。チームラボのプロジェクトを紹介（これは、どこの国のメイカーでも関心を示すようなものです）していた僕は、それに加えて「日本のメイカーたちが持っているものを海外に見せたい」と考え、「ニコ技輸出」というプロジェクトをはじめました。²

ニコニコ技術部で作ったものや、「才能の無駄遣い」「初音ミクによるコラボレーション³」といった概念について海外で紹介し、また海外の人たちが東京の Maker Faire に来ることを支援するプロジェクトです。

フィリピンでの第1回 Fablab Asia 会議での発表を皮切りに、台北・トロンヘイム（ノルウェー）などで発表され、台北の人たちの力を借りて中国語版もつくられています。

メイカームーブメントで「楽しむもの作り」が奨励されているのは、イノベーションの市民課によりますます多様化する社会の中で、「まず自分が楽しいと思って作ること」の価値がどんどん上がっているからです。2014 年の Maker Faire、深圳とシンガポールの実行委員会の人たちは東京に実際に見たのですが、彼らが見た、VR の Oculus Rift のようなものを DIY で作ってしまう「Fake Rift」や、ニコニコ技術部の「全自動引きこもり機（回路師さん）」「自作 3D プラネタリウム（ヒゲキタさん）」「スケルトニクス」など、日本のメイカーたちの作品は、世界のメイカーを驚かせるようなものでした。「全自動引きこもり機（回路師さん）」などは、その場で深圳で商品化に向けて話し合いが始まったほどでした。

ニコニコ学会 β シンガポール

² ニコ技輸出 Wiki

http://wiki.nicotech.jp/nico_tech/?%E3%83%8B%E3%82%B3%E6%8A%80%E8%BC%B8%E5%87%BA

³ 初音ミクが作り出した未来

http://wirelesswire.jp/m_takasu/201411140800.html

ニコニコ学会βの活動についても、僕は各地で紹介しています。具体的な研究内容だけでなく、「ニコニコ学会βという試みとシンポジウムのフォーマット」そのものが注目されたのは、シンガポールでのことでした。

2014年の5月からシンガポール勤務になっていた僕は、「日本では、自分が楽しめるサイエンスを披露し合う活動があるよ」と、**Maker Faire** シンガポール実行委員会に、ニコニコ学会βについて紹介しました。

- ・研究というものが民主化されて、研究機関の外側でも自発的に研究が行われている
- ・内容としてはオンライン中心のシンポジウムを行い、ネットで生中継している。10万人ぐらいの人が見ている。
- ・自発的な研究は面白いモノもつまらないモノもあるけど、3分というフォーマットにすることで、キャッチーな部分を抽出することができる（研究してみたマッドネス）
- ・プロによる研究は評価のプロセスがあるぶん面白いモノが多いのだけど、全容が掴みづらいという問題もある。15分で20個の研究を発表してもらおうと、専門家じゃない人がみてもスゴさがつたわる（研究100連発）

など、ニコニコ学会βの取り組みについてシンガポール **MakerFaire** の実行委員会にプレゼンしたのです。シンガポールの **Maker Faire** は、日本でいう科学未来館に当たる国立サイエンスセンターが運営している、世界でも珍しい「国営」のフェアです。実行委員の人たちも本業は公務員で、科学の普及や、人を **Creative** にすることに対してすごく関心があります。ニコニコ学会βはその意味で親和性が高く、「野生の研究者が、3分間に絞って自らのアイデアを発表する」という、研究してみたマッドネスのフォーマットをシンガポールで実現することになり、**Mini MakerFaire** シンガポールでのニコニコ学会βが実現したのでした。

シンガポールは「経済成長をする」「個人の自由が他人の自由とぶつからない社会を作る」という2つのシンプルな方針のもと、アジアの発展途上国だった昔から、日本の倍近い平均所得となり、アジアでもっとも豊かな国となった今も、止まらない経済成長を続けています。発展のために、投資や教育については政府から強力なサポートがされています。たとえば、土地の高度利用を行うための立て直し、いわゆる「地上げ」については、**en blok**という制度で「80%の地権者が賛成すれば建物を建て替えてよい」という制度が敷かれています。20%ぐらいの人の「経済効率は置いて、同じ家に住んでいたい」という要求よりも、経済発展を優先しているわけです。実際に斬新な建築物がどんどん建設されています。一方で、自由に経済活動ができることや、それぞれの文化を保つことができることについては保証され、500万人あまりの人口なのに公用語が4つもあり、それぞれの言語での教育も行われています。

Maker Faire は、そうしたシンガポールの経済成長を支え、イノベーションを牽引していく活動の一つとして、政府から強いサポートを受けています。シンガポールの政治家は若

くてテクノロジーに詳しい人が多く、IT 分野を主導するヴィヴィアン・バルキシナン大臣にいたってはスティーブ・ウォズニアクと Apple II Basic についての思い出を語り合う現役の「ギーク」で、大臣自ら **Maker Faire** を主導しています。僕が知る限り、閣僚が自ら **Maker Faire** を主導しているのは、ホワイトハウスで **Maker Faire** を開いたアメリカのオバマ大統領と、このヴィヴィアン大臣だけです。自らプログラマーの政治家が国を牽引していく、まるで SF のような国です。

ビデオでシンガポール **Maker Faire** 実行委員長の Kiruchika が話しているように、2015 年 7 月に行われる次回の **Maker Faire** では、ニコニコ学会 β と連携したセッションや、ニコニコ技術部からの出展を、さらにシンガポール **MakerFaire** として進めていこうと、僕を含めた実行委員会は考えています。

2012 年の第 1 回は 30 の出展者、2013 年の第 2 回は 50 の出展者、2014 年の第 3 回は 70 の出展者だった **Mini Maker Faire** は、2015 年は 100 を超える出展者を目指し、2016 年ないしはアジアで 4 番目のフラッグシップフェアとなることを目指しています。

2015 年の 09 月、シンガポールは独立 50 周年を迎えます。ニコニコ学会 β のような活動が、このダイナミックな社会に根付いていくことは、新たなものを生み出す可能性があると考えています。

Maker Faire は 7 月の中頃の週末を予定していますが、まだ日付も確定していない状態です。日付や申し込みの方法などは、公式サイト <http://makerfaresingapore.com/> や、僕の Facebook、twitter、⁴先ほど紹介したニコ技輸出プロジェクトのサイトなどお伝えしていきます。

日本からの出展を増やしたいので、日本語での出展受付や問い合わせサポート、あるていど固まってブースを用意する（お互い荷物見たり説明サポートできるように）、**Maker Faire** の後にシンガポールの **Maker** 達を見に行く見学ツアーを用意する、などの企画を考えています。

みなさんの出展をお待ちしています。

⁴ Facebook

<https://www.facebook.com/takasumasakazu>

Twitter

<https://twitter.com/tks>